

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：若手研究(B)
 研究期間：平成 18 年度 ~ 平成 20 年度
 課題番号：18791645
 研究課題名(和文) 看護技術における学生の創意工夫を育む自己学習プログラムに関する研究
 研究課題名(英文) Study on self-learning program which promote original ideas in nursing skills
 研究代表者 中山 栄純(NAKAYAMA EIJUN)
 北里大学・看護学部・講師
 研究者番号：70326081

研究成果の概要：

基礎看護実習前の学生に自己学習の時間を確保し、学生の看護技術における科学的根拠の理解、およびその創意工夫を意図したプログラムを実施し、その効果について検討した。分析の結果、対象は自分が実習を行う病棟の特色をグループで話し合ったり、担当教員の助言を得ながら、対象の状態をイメージし、それにあわせて基本的な看護技術の方法を工夫していた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,300,000	0	1,300,000
2007 年度	1,600,000	0	1,600,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	150,000	3,550,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：

1. 研究開始当初の背景

従来、看護技術教育方法としては、「講義 教員のデモンストレーション その方法の演習」という形で授業展開されることが多かったが、どうしても学生はその手順を暗記することに偏りがちで、その方法の根拠の理解やその技術を創意工夫させる視点は育ちにくいのが現状であった。また、この看護技術の習得には授業時間内だけの演習では、

時間的にも十分ではなく、学生の積極的な自己学習が必要とされる。

2. 研究の目的

今回、基礎看護実習前の学生に自己学習の時間を確保し、学生の看護技術における科学的根拠の理解、およびその創意工夫を意図したプログラムを実施し、その効果について検討した。

3. 研究の方法

基礎看護実習前に本プログラムでの自己学習を体験した看護系大学3年生のうち、実習終了後の面接調査に対する参加の同意が得られた27名を本研究の対象者とした。調査期間は平成20年4月～5月に基礎看護実習前の自己学習の取り組みについて、半構造的面接を行った。面接内容を対象者の同意を得た上で録音し、逐語録を作成した。語られた内容については、学生の自己学習に影響を及ぼしていると考えられる要因に焦点をあてて分析した。なお、本研究は研究者の所属する大学の倫理委員会による承認をうけて実施し、同意にあたっては同意書を取得した。面接データはすべて研究者によって厳重に管理され、個人を特定できないようコード化して使用した。また、実際の面接は実習を担当していない教員が実施した。

4. 研究成果

分析の結果、対象は自分が実習を行う病棟の特色を実習グループ間で話し合ったり、担当教員の助言を得ながら、対象の状態をイメージし、それにあわせて基本的な看護技術の方法を工夫・発展させていっているプロセスが明らかになった。また、看護技術の効果に関して実際に検証して、学びをより深めているグループの存在も明らかになった。今後は、学生の看護技術に対する自己学習をより促進する学習環境の整備や効果的な教材の作成について検討していく予定である。

また、今回学生より得られたデータから、学生の自己学習の学びのプロセスに関して、より詳細な分析を現在も継続している。この結果については、関連の学会雑誌において発表予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2件)

1. 岡崎寿美子、城戸滋里、中山栄純、本戸史子、基礎看護学における看護技術教育の実際、北里看護学誌、8(1)、62-66、2006、査読有
2. 中山栄純、廣瀬稔、医療機器の安全教育の現状と課題、Clin Eng、18(7)、734-737、2007、査読無

〔学会発表〕(計 3件)

1. 中山栄純、岡崎寿美子、城戸滋里、本戸史子、猪又克子、基礎看護技術「与薬」の授業に関する教授効果の把握、日本看護技術学会学術集会講演抄録集、5、106、2006
2. 本戸史子、中山栄純、城戸滋里、岡崎寿美子、学生の視点からみた看護技術到達度、日本看護科学学会学術集会講演集、26、263、2006
3. 高橋真寿、中山栄純、石井要、看護学生の栄養管理に対する観察点と症例への関わりについて、静脈経腸栄養、23(増)389、2008

〔図書〕(計 2件)

1. 中山栄純、嚥下機能・栄養アセスメント、看護技術ベーシックス、108-113、医学芸術社、2007
2. 中山栄純、食事の介助、看護技術ベーシックス、114-119、医学芸術社、2007